

新潟大学大学院 2025

現代社会文化研究科

大学院(博士前期・後期課程)案内



NIIGATA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF MODERN SOCIETY AND CULTURE

〈現代性〉の
見地から、
〈共生〉の
道を
切り拓く。



博士前期課程

現代文化専攻
社会文化専攻
法政社会専攻
経済経営専攻

博士後期課程

人間形成研究専攻
共生文化研究専攻
共生社会研究専攻



新潟大学大学院 現代社会文化研究科

大学院 (博士前期・後期課程) 案内

GRADUATE SCHOOL OF
MODERN SOCIETY AND CULTURE
NIIGATA UNIVERSITY

CONTENTS

研究科長挨拶	1
アドミッション・ポリシー	2
学位取得までのプロセス(履修科目等)	4
専攻紹介	
博士前期課程	6
現代文化専攻	
社会文化専攻	
法政社会専攻	
経済経営専攻	
博士後期課程	10
人間形成研究専攻	
共生文化研究専攻	
共生社会研究専攻	
入学試験(博士前期課程)について	16
入学試験(博士後期課程)について	17
キャンパスライフ～在学生からのメッセージ～ ...	18
修了生の声	20

研究科長挨拶

Message from the Dean



新潟大学大学院現代社会文化研究科長

Dean of the Graduate School of Modern Society and Culture,
Niigata University

番場 俊 BAMBA Satoshi, Ph.D.

(ばんば さとし)

先日、とある高等教育関係のシンポジウムにオンラインで参加していたときのこと。教育上の重要なテーマに関する会議だからもちろん真面目に参加していたつもりだが、この種の催しは、半分は主催者への義理で参加することがつねであり、また、自室でのZoom参加ということもあって、あるいは少々居眠りしながらであったかもしれない。あるパネリストのひとことが耳を撃った。あわててパソコンに向きなおし、まだつづいている講演をよそに、ブラウザを開いて検索する。数日後に届いた書物のなかで、戦後日本を代表する思想家・鶴見俊輔は、15歳で渡米し、大学で学んでいた折に出会った一つの言葉から受けた衝撃について回想していた。「戦前、私はニューヨークでヘレン・ケラー（1880-1968）に会った。私が大学生であると知ると、「私は大学でたくさんのことを学んだが、そのあとたくさん、学びほぐさなければならなかった」といった。学び（ラーン）、のちに学びほぐす（アンラーン）。「アンラーン」ということばは初めて聞いたが、意味はわかった。型通りにセーターを編み、ほどいて元の毛糸に戻して自分の体に合わせて編みなおすという情景が想像された」（『新しい風土記へ——鶴見俊輔座談』朝日新書、2010年）。

私たちは学んだ（learn）ものを学びほぐさ（unlearn）しなければならない、——鶴見はそういつている。学んだことをいったん忘れること。型通りに修得した知識を解体し、セーターをほぐして編みなおすように、私たちひとりひとりの身の丈にあった知識として新たに築きなおすこと。身の丈にあった、というのは、頭の悪い私たちにも分かるように矮小化する、ということではない。そうではなくて、私たちひとりひとりが抱えている問題の複雑さ、その特異性にしがって、よそから借りてきた知識を組み立てなおすこと、知識をその他者との出会いのなかで鍛えなおすということだろう。「学びほぐす」という日本語が英語“unlearn”の訳語としてはややこじつけめいているというのであれば、端的に「忘れる」でもかまわない。私たちは学んだことを忘れなければならないのだ。新たに学びなおすために。

ここまで考えてくると、これはむしろ大学より大学院にふさわしい教えなのではないかという気がしてくる。「学びほぐす」ための場としての大学院——そんなキャッチフレーズが頭に浮かぶ。大学がなにかを「学ぶ」場としてあるとすれば、大学院は——とりわけ人文社会科学の諸領域にまたがる課題探究型の総合型大学院としてつくられた私たちの新潟大学大学院現代社会文化研究科は——、私たちがこれまで学んできたことをいったん忘れ、隣接する他領域との対話、先生たちとの、学友たちとの豊かな対話を繰り返しながら、知識を鍛えなおす「学びほぐし」の場としてあるのではないか。それはなにも従来の学科を無理にでも否定しなければならないということを意味しない。同じ書物のなかで鶴見の対談相手である中国の日本政治思想史研究者・孫歌（スン・グー）はいっている。「私は気軽に「越境」を考えていません。そして「越境」ということは学科と学科の間というより、学科の内部で行われると考えています。それはつまり、学科を崩すとか併合するとかというのではなくて、古く見られる学科を「開ける」ということです」。私たちの「現社研」が、そんな「学びほぐし」と「越境」の場になることを期待したい。

新潟大学大学院現代社会文化研究科 アドミッション・ポリシー

本研究科の各専攻は、それぞれに下記の目的によって教育研究を進めています。そのような教育研究の目的に応じて、本研究科は、専門職業人又は研究者となる意欲と可能性を有した者を募集します。

博士前期課程

【現代文化専攻】

社会や文化に関する諸課題を、メディア文化、情報社会、哲学・心理学及び人間形成環境科学の観点から発見しそれを探求する能力を涵養する。それにより、現代社会文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成する。

【社会文化専攻】

社会や文化間の相互理解に関する諸課題を、世界の言語・歴史・文化の観点から発見しそれを探求する能力を涵養する。それにより、社会や文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成する。

【法政社会専攻】

法制度及び行政に関する諸課題を、共生社会の構築という観点から発見しそれを探求する能力を涵養する。それにより、法政社会についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成する。

【経済経営専攻】

グローバル化が進む現代社会の重疊的かつ複雑な経済に関する諸課題を、経済学・経営学の観点から発見しそれを探求する能力を涵養する。それにより、経済経営についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成する。

博士後期課程

【人間形成研究専攻】

家庭、学校、又は社会等における人間形成に関する諸課題を、生活環境・文化・教育の観点から分析し解決する能力を涵養する。養われた能力により、人間形成についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度な専門職業人又は研究者を育成する。

【共生文化研究専攻】

世界の諸地域の言語・歴史・文化に関する諸課題を、地域間の相互理解と相互発展という共生の観点から多角的かつ総合的に分析し解決する能力を涵養する。培われた能力により、日本、アジア、そして欧米等の言語・歴史・文化についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度な専門職業人又は研究者を育成する。

【共生社会研究専攻】

国際社会や地域社会における、法、政治、または経済等のシステム及び制度に関する諸課題を、社会間の相互理解と相互発展という共生の観点から多角的かつ総合的に分析し解決する能力を涵養する。獲得された能力により、法学又は経済学の高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度な専門職業人又は研究者を育成する。

教育目標

課題探求能力の育成

現代社会文化研究科の教育目標は「課題研究能力の育成」です。

現代の社会は、自己責任型社会へ急速に転換しつつあります。自己責任型社会では、時代の変化に、私たちが主体的に対応できる能力が求められます。それには、自分で学ぶ能力を基礎にして、将来の課題を探究し、幅広い視野から総合的な判断を下すことができる課題探求能力を習得する必要があります。

2つの 理念

〈現代性〉と〈共生〉

本研究科の名称は、「現代」と「社会文化」によって構成されています。この名称は、2つの理念を表現しています。

理念のひとつは〈現代性〉です。〈現代性〉とは、課題設定の方法についての理念を示します。学生は、社会と文化の全領域から自分の課題を設定し、その課題の解決の仕方を、「現代」の問題と関連付けて研究します。

理念のふたつ目は〈共生〉です。〈共生〉とは、課題解決の方向性を示す理念です。「現代」の課題を解決するためには、社会と文化について、人間と人間、人間と自然が共存できるシステムを構想しなければなりません。その理念が〈共生〉です。

6つの特色

「教育目標」と「2つの理念」を実現するために、本研究科は、6つの特色を備えています。

1

**課題探求型の
総合型大学院**

人文科学・法学・経済学・教育科学にまたがる多数の教員を擁しています。学生は、自分の研究課題に沿う指導を受けることができます。

2

**一人ひとりに
合わせた指導体制**

学生一人ひとりに履修指導委員会（主指導教員1人・副指導教員2人によって構成されます）を設け、学生の研究課題に応じた履修指導と論文指導を行います。

3

**専門型の
博士前期課程、
学際型の
博士後期課程**

課題を探究するには、専門性と学際性との調和のとれた能力を有する必要があります。

博士前期課程では、各自の課題を探究するのに必要な専門的学力の習得に努めます。そのことから、専門性を主・学際性を副とするカリキュラムを用意しました。

博士後期課程では、課題解決能力の獲得を目指します。そのことから、学際性を主・専門性を副とするカリキュラムを組みました。教員・学生による研究プロジェクトにも参加します。

4

課題に応じた学位

各自の研究課題に応じた学位を取得できます。

博士前期課程では、修士（文学）、修士（法学）、修士（行政学）、修士（経済学）、修士（経営学）、修士（公共経営学）、修士（学術）の7種類から、いずれかの学位を取得できます。

博士後期課程では、博士（学術）を基本としつつ、博士（文学）、博士（法学）、博士（経済学）、博士（教育学）のいずれかから取得できます。

5

**社会人や外国人にも
開かれた大学**

社会人や外国人を積極的に受け入れるために、入学試験では、社会人や外国人を対象にした特別入試を実施しています。また、社会人学生に対しては、必要に応じて、夜間授業等を開講しています。

6

**学位取得に向けた
履修体制**

博士前期課程では2年、博士後期課程では3年の標準修業年限で学位を取得する履修体制を組んでいます。短期修了（修業年限の特例として、優れた研究業績を上げた者に適用）や長期履修の制度もあります。

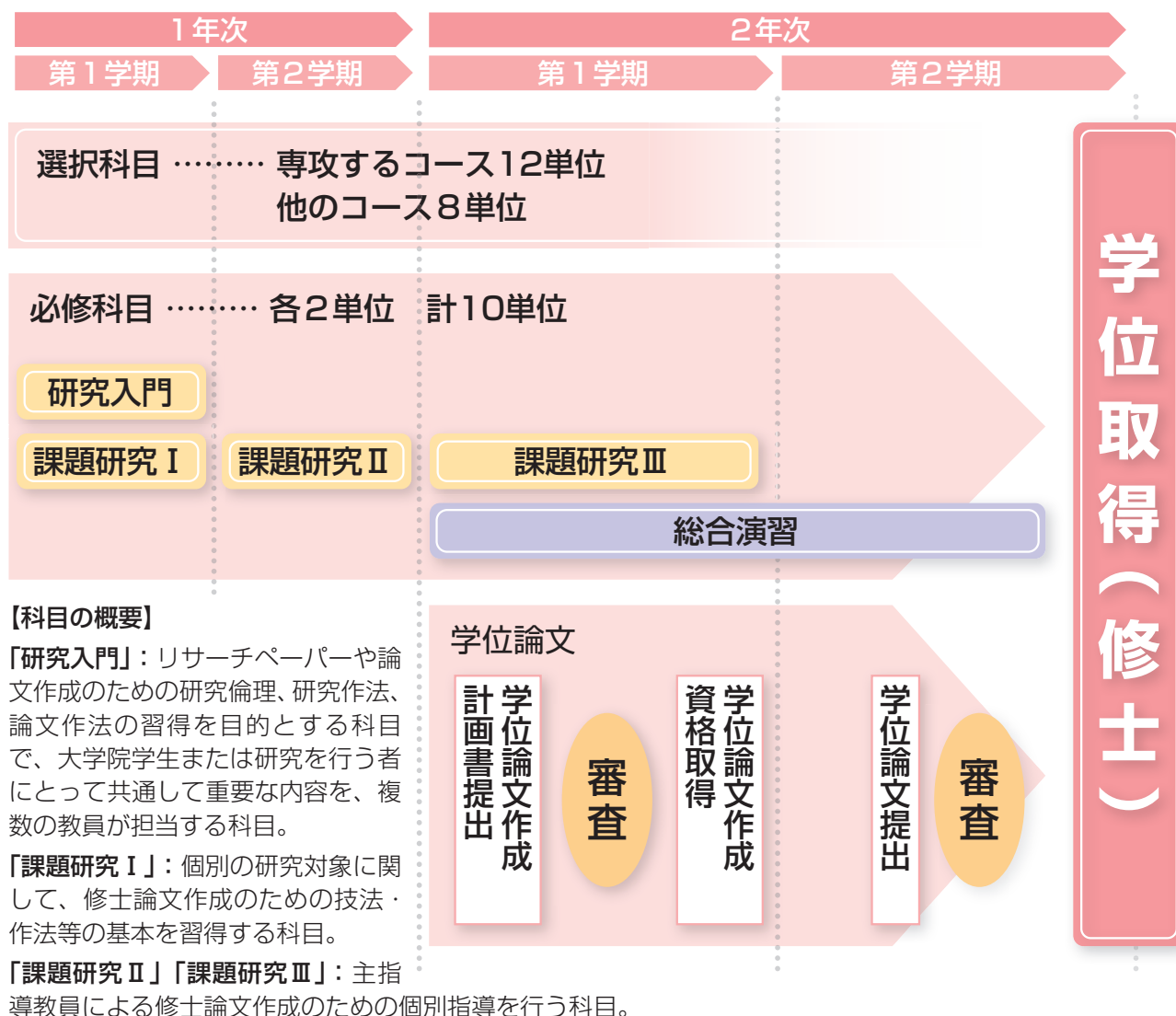
学位取得までのプロセス(履修科目等)

大学院学生は、博士前期課程又は博士後期課程においてそれぞれに必要な科目を履修して単位を取得し、修士論文又は博士論文を作成し審査(試験)に合格することを目的とします。

博士前期課程

博士前期課程では、6～9頁に掲載した授業科目の中から自己の研究に即した科目(選択科目)を履修するとともに、以下に図示したような博士前期課程学生として修得すべき科目(必修科目)等を履修しなければなりません。また、4つの専攻の全学生が履修できる領域融合・分野横断的な「共通科目」を設け、さらにインターンシップ、他大学院の授業科目の履修や入学前の既修得単位などを研究上有益と認められる場合にそれらを認定しています。それらを総計して、専門的学力の獲得に重きを置いた科目として30単位以上を修得し、修士論文を作成しなければなりません。

※経済経営専攻日本酒学分野日本酒学コースの学生は、上記の必修科目及び専攻必修科目に加え、必修科目として「基礎日本酒学実習」、「発展日本酒学実習」、「課題発掘・解決セミナーⅠ」、「課題発掘・解決セミナーⅡ」(各2単位)の8単位、選択必修科目として「日本酒学概論Ⅰ～Ⅴ」(各1単位)を4単位以上修得する必要があります。

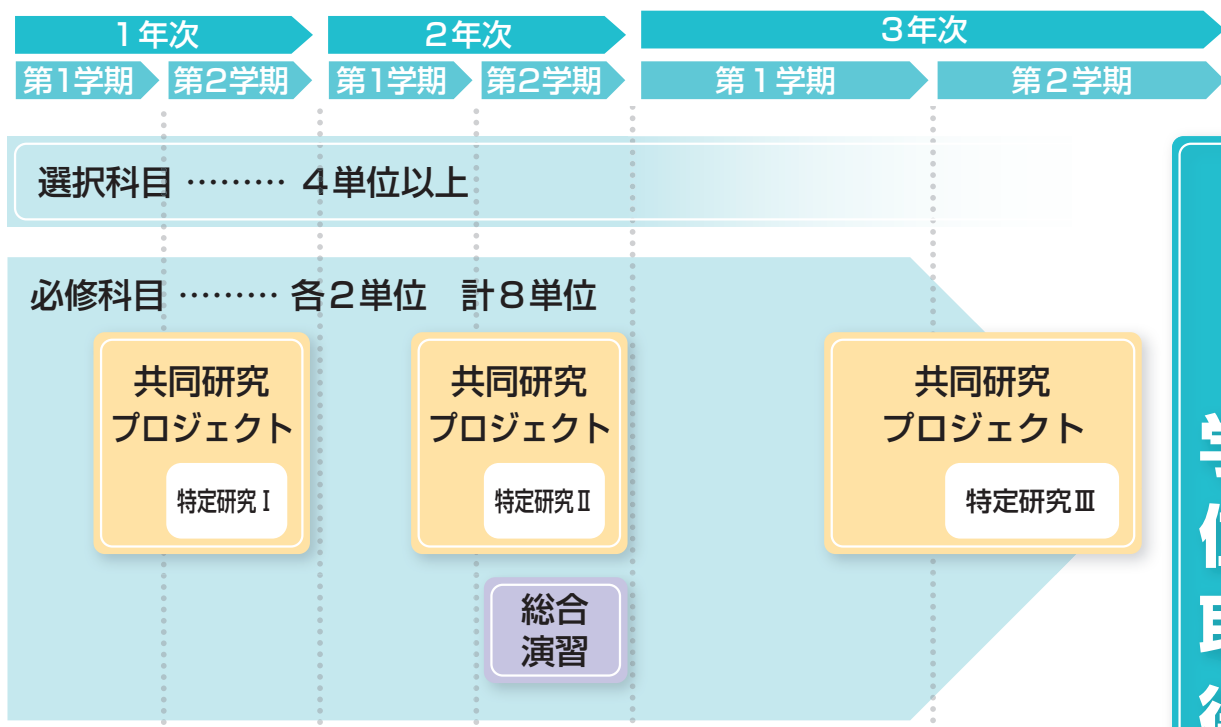


学位取得(修士)

博士後期課程

博士後期課程では、10～15頁に掲載した授業科目（選択科目）のほかに、「特定研究Ⅰ」「特定研究Ⅱ」「特定研究Ⅲ」「総合演習」を必修科目として設けて、専門的学力を獲得し、博士号を取得することを目標としています。

※共生社会研究専攻日本酒学分野を専攻する学生は、特定研究6単位及び総合演習2単位に加え、分野必修科目として「日本酒学特論Ⅰ」、「日本酒学特論Ⅱ」（各1単位）、「日本酒学博士セミナーⅠ」（2単位）の4単位、分野選択必修科目として「日本酒学国際特別研究」（1単位）、「日本酒学博士セミナーⅡ」、「日本酒学博士セミナーⅢ」（各2単位）のうち2単位以上、及び専攻内他分野開講科目2単位以上、計16単位以上を修得しなければなりません。



【科目の概要】

「特定研究Ⅰ」「特定研究Ⅱ」「特定研究Ⅲ」: 学生が、本研究科の教員と学生による小規模な研究会（共同研究プロジェクト）に参加して、博士論文作成の準備を進める科目。

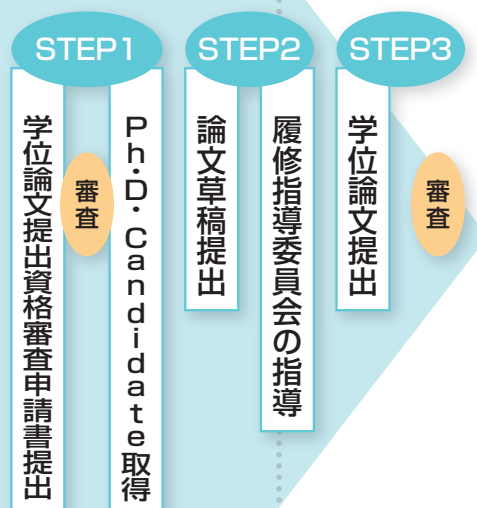
「総合演習」: 学生が教員、他の学生の前で研究発表を行い、そこでの質疑応答を通じて発表者の当該研究課題に対する理解を深め、博士論文のブラッシュアップにつなげる科目。

* 学術誌『現代社会文化研究』の刊行
博士論文の完成に向けて、本研究科では学術誌や学術報告書への公表を支援しています。その公表の場として、本研究科は学術誌『現代社会文化研究』を年2回刊行しています。

〈論文提出に向けた手続き・審査〉

第1ステップでは、3年次の1学期に「学位論文提出資格審査申請書」を提出し、これにもとづき口述試験及び筆記試験が行われ、申請者の研究能力や学力が審査されます。その審査で合格して、申請者は「学位論文提出資格者（Ph. D. Candidate）」となります。さらに「博士論文草稿」の提出により、履修指導委員会の指導を受ける第2ステップに進みます。そして第3ステップとして、完成させた「学位論文」の提出があると、論文審査と口述試験により、学位にふさわしい能力を有しているかどうか審査されます。その審査で合格と判定されると、博士の学位が授与されます（学位の種類は、各専攻紹介の頁を参照）。

学位論文



学位取得（博士）

専攻紹介

— 博士前期課程 —

博士前期課程 【現代文化専攻】

社会や文化の表層や根底にあるものを探求し、メディア学、文化科学、情報社会科学、哲学、心理学及び人間形成環境科学分野における専門性を獲得し、他の専門分野や実務との邂逅を通してその専門性をより高めることによって、課題発見と探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成します。

取得できる学位 修士(文学)、修士(学術)

情報社会文化分野

メディア文化 コース

映像文化I
(石田 美紀)

映像文化II
(キム・ジュニアン)

表象文化
(番場 俊)

テキスト文化
(猪俣 賢司)

大衆文化
(甲斐 義明)

身体表現
(未定)

文化空間論
(未定)

現代美術文化
(丹治 嘉彦)

地域美術文化
(柳沼 宏寿)

機能造形
(橋本 学)

日本画表現
(永吉 秀司)

西洋音楽文化
(田中 幸治)

音楽創作論
(清水 研作)

音楽表現論
(鈴木 賢太)

声楽演奏論
(鈴木 愛美)

演奏表現論
(宇野 哲之)

音楽教育学
(工藤 千晶)

情報社会 コース

情報システム論
(中村 隆志)

メディア論
(古賀 豊)

理論社会学I
(松井 克浩)

理論社会学II
(内田 健)

ジェンダー論
(杉原 名穂子)

社会ネットワーク論
(未定)

保健医療社会学
(伊藤 嘉高)

文化人類学
(園田 浩司)

科学技術と社会
(佐藤 靖)

人間形成科学分野

思想・心理科学 コース

宗教思想
(青柳 かおる)

西洋思想史
(阿部 ふく子)

現代倫理学
(未定)

比較哲学
(岡嶋 隆佑)

認知哲学
(未定)

〈基礎心理領域〉

認知科学
(新美 亮輔)

発達心理学
(小林 恵)

比較心理学
(未定)

教育心理学
(未定)

環境心理学
(未定)

社会心理学
(福島 治)

生涯発達心理学
(松井 賢二)

障害児心理学I
(有川 宏幸)

障害児心理学II
(渡邊 流理也)

障害児言語学
(入山 満恵子)

パーソナリティ心理学
(並川 努)

応用実験心理学
(中嶋 豊)

〈臨床心理領域〉

臨床心理学
(佐藤 友哉)

臨床心理査定学
(田中 恒彦)

心理療法論
(未定)

人間形成環境科学 コース

コミュニティヘルス
(田中 誠二)

運動機能学
(牛山 幸彦)

身体運動文化
(未定)

健康教育
(笠井 直美)

身体発達学
(未定)

ヘルスケア論
(村山 敏夫)

体育心理学
(森 恭)

運動生理学
(天野 達郎)

応用健康科学
(笠巻 純一)

健康運動論
(檜皮 貴子)

衣環境評価学
(杉村 桃子)

衣環境材料学
(中村 和吉)

食環境科学
(未定)

住環境学
(未定)

教育哲学
(福田 学)

生涯教育学
(未定)

教育社会学
(古田 和久)

教育方法学
(岡野 勉)

現代リテラシー論I
(足立 幸子)

現代リテラシー論II
(中西 裕也)

教育工学
(澤邊 潤)

教育史
(塩原 佳典)

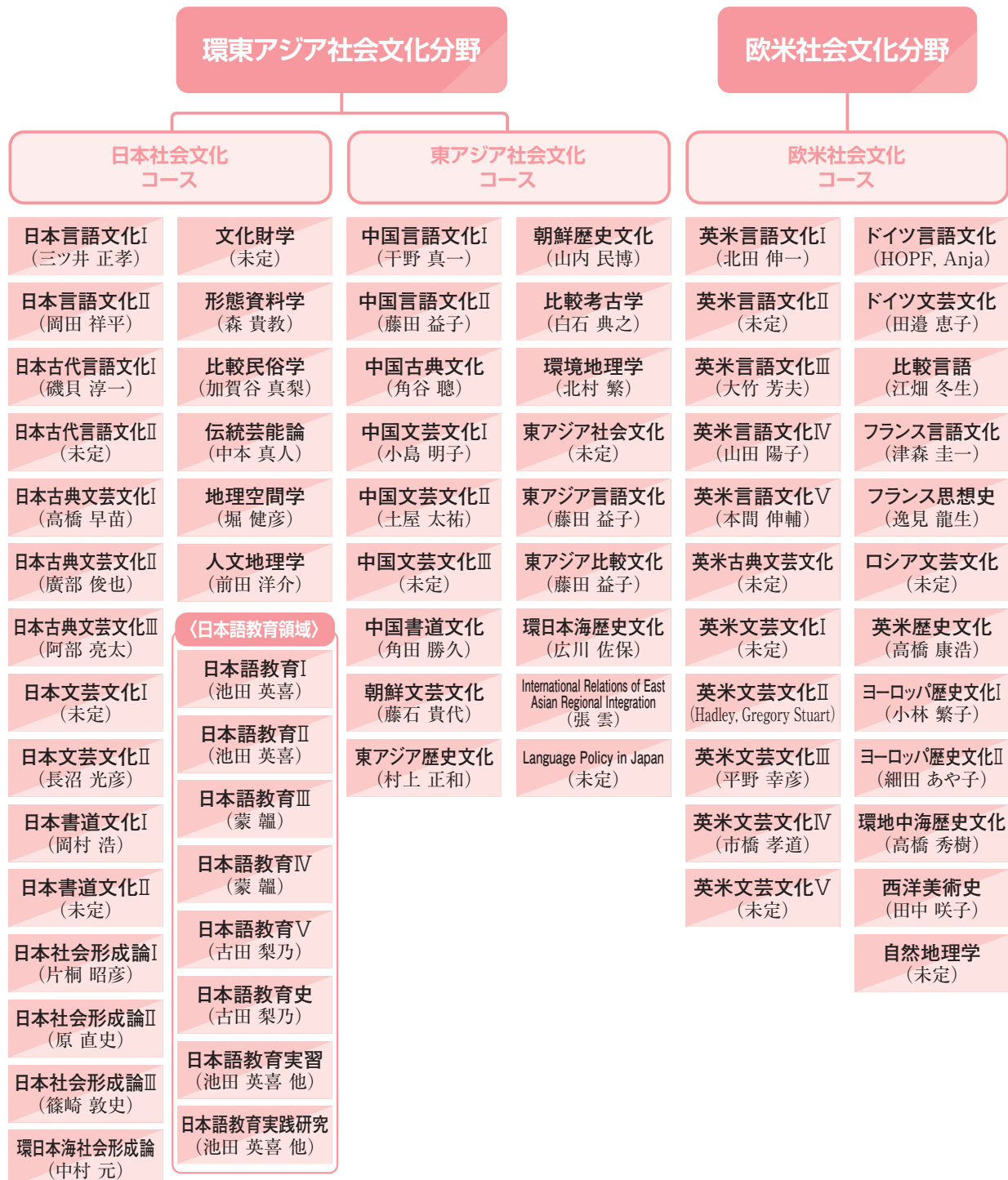
社会認識論I
(釜本 健司)

社会認識論II
(田中 一裕)

博士前期課程 【社会文化専攻】

社会や文化間の相互理解に関する課題を見据え、歴史学、言語学、言語文化学、比較文化論に関する研究を様々な観点から行い、そして他の専門分野や実務との邂逅を通してその専門性をより高めることにより、課題発見と探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成します。

取得できる学位 修士(文学)、修士(学術)



博士前期課程 【法政社会専攻】

いずれの社会生活または活動においてもその基礎となる法学及び行政学を含む政治学に関する研究を行い、他の専門分野や実務との邂逅を通してその専門性をより高めることにより、課題発見と探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成します。

取得できる学位 修士(法学)、修士(行政学)、修士(学術)



博士前期課程 【経済経営専攻】

社会における限られた資源の分配や個人と組織との関係など、経済学、経営学、公共経営学に関して探求することにより、また他の専門分野や実務との邂逅を通してその専門性をより高めることによって、課題発見と探求能力を有する専門職業人又は研究者を育成します。

取得できる学位

修士(経済学)、修士(経営学)、修士(公共経営学)、修士(学術)

経済社会分野		経営会計分野		日本酒学分野
理論・計量経済 コース	グローバル社会 経済ネットワーク コース	マネジメント コース	アカウンティング コース	日本酒学 コース
ミクロ経済学 (山崎 剛志)	経済情報分析 (未定)	公共経済学 (中東 雅樹)	財務会計 (藤田 健人)	日本酒と経済分析 (澤村 明)
組織の経済学 (濱田 弘潤)	財政学 (根岸 陸人)	公共選択論 (小川 顕正)	管理会計 (有元 知史)	日本酒と自治体政策 (宍戸 邦久)
計量経済分析 (伊藤 伸幸)	世界経済史 (高垣 里衣)	NPO論 (澤村 明)	国際会計 (加井 久雄)	酒類行政論 (未定)
金融論 (未定)	比較経済思想史 (武藤 秀太郎)	中小企業論 (張 文婷)	経営税務 (未定)	日本酒アントレプレナーシップ論 (伊藤 龍史)
市場と組織の理論 (大屋 靖成)	アメリカ経済 (大森 拓磨)	地方財政 (宍戸 邦久)	租税理論 (未定)	日本酒酒蔵の中小企業論 (張 文婷)
環境経済学 (藤堂 史明)	ロシア東欧経済 (道上 真有)	経営情報 (未定)		酒蔵組織の企業行動論 (岸 保行)
国際経済学 (未定)	EU経済 (藤田 憲)	経営戦略論 (伊藤 龍史)		日本酒とブランディング (石塚 千賀子)
労働経済学 (張 俊超)	中国経済 (溝口 由己)	経営組織 (丸山 峻)		
ゲーム理論 (高宮 浩司)	開発途上国経済 (石川 耕三)	組織行動 (岸 保行)		
マクロ経済学 (長谷川 雪子)	政治経済学 (柴田 透)	医療経営 (堀籠 崇)		
国際マクロ経済学 (中田 豪)		マーケティング論 (石塚 千賀子)		
経済統計学 (伊藤 伸幸)		技術経営 (白川 展之)		

専攻紹介

— 博士後期課程 —

博士後期課程 【人間形成研究専攻】

人間形成研究専攻は、家庭・学校・社会等における人間形成に関する課題を、生活環境・文化・教育の観点から分析・解決する能力を涵養し、人間形成についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(文学)、博士(教育学)

人間形成文化分野

知覚情報研究 (新美 亮輔)	成人教育思想研究 (未定)	行動変容研究 (神村 栄一)	住環境研究 (未定)
知覚実践研究 (中嶋 豊)	科学技術論研究 (佐藤 靖)	認知行動病理学研究 (田中 恒彦)	食環境研究 (未定)
性格形成研究 (福島 治)	文化人類学研究 (園田 浩司)	対人援助研究 (未定)	水中運動研究 (大庭 昌昭)
性格測定研究 (並川 努)	メディア社会文化研究 (古賀 豊)	健康行動研究 (天野 達郎)	健康支援科学研究 (笠巻 純一)
認知発達研究 (小林 恵)	社会情報システム研究 (中村 隆志)	運動機能研究 (牛山 幸彦)	健康運動研究 (村山 敏夫)
現代社会研究 (松井 克浩)	ジェンダー研究 (杉原 名穂子)	身体発達研究 (未定)	健康行動形成研究 (森 恭)
認識哲学研究 (阿部 ふく子)	社会ネットワーク研究 (未定)	身体思想研究 (未定)	健康体操研究 (檜皮 貴子)
比較思想形成研究 (未定)	地域社会学研究 (伊藤 嘉高)	衣環境評価研究 (杉村 桃子)	健康教育研究 (笠井 直美)
宗教思想研究 (青柳 かおる)	認知形成研究 (中島 伸子)	衣環境材料研究 (中村 和吉)	コミュニティヘルス研究 (田中 誠二)
	認知思想研究 (未定)		
	家族力動論研究 (未定)		



現代教育文化分野

教育行政研究 (雲尾 周)	障害児者コミュニケーション支援研究 (入山 満恵子)	音楽実践研究 (未定)	現代日本画造形表現研究 (永吉 秀司)
教育測定研究 (未定)	障害児者生理的発達支援研究 (渡邊 流理也)	音楽創作研究 (清水 研作)	家庭科教育方法研究 (未定)
教育開発研究 (澤邊 潤)	社会科授業開発研究 (田中 一裕)	音楽表現研究 (田中 幸治)	教育哲学研究 (福田 学)
教育政策と教育法研究 (未定)	数学教育研究 (阿部 好貴)	演奏表現研究 (宇野 哲之)	教育社会学研究 (古田 和久)
キャリア教育研究 (未定)	英語教育評価研究 (未定)	音楽教育学研究 (工藤 千晶)	教育方法学研究 (岡野 勉)
生涯学習研究 (相庭 和彦)	英語教育読解指導研究 (加藤 茂夫)	美術表現研究 (未定)	教授学習研究 (未定)
特別支援教育研究 (未定)	読書教育研究 (足立 幸子)	現代美術表現研究 (丹治 嘉彦)	教育史研究 (塩原 佳典)
障害児者支援研究 (有川 宏幸)	音楽演奏表現研究 (鈴木 賢太)	美術教育研究 (柳沼 宏寿)	社会科教育史研究 (釜本 健司)
		デザイン表現研究 (橋本 学)	経済教育研究 (柴田 透)

博士後期課程 【共生文化研究専攻】

共生文化研究専攻は、世界の諸地域の言語・歴史・文化に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、日本、アジア、欧米等の言語・歴史・文化についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(文学)

地域共生文化分野

環日本海地域関係研究
(中村 元)

日本国家形成研究
(未定)

東アジア文化圏研究
(村上 正和)

ユーラシア文化形成研究
(白石 典之)

歴史環境形成研究
(堀 健彦)

社会地理学研究
(前田 洋介)

火山地域関係研究
(北村 繁)

朝鮮社会構造研究
(山内 民博)

アジア近代社会研究
(広川 佐保)

中国文芸文化研究
(未定)

近代朝鮮文学研究
(藤石 貴代)

環日本海民俗研究
(加賀谷 真梨)

日本文化形成研究
(高橋 早苗)

日本芸能文化研究
(中本 真人)

日本近代言語文化研究
(三ツ井 正孝)

日本近代文芸文化研究
(未定)

日本民俗研究
(未定)

日本伝統文芸文化研究
(廣部 俊也)

日本近世社会研究
(原 直史)

書道文化研究
(岡村 浩)

東アジア書跡研究
(角田 勝久)

中国古典文学研究
(角谷 聰)

中国文化研究
(土屋 太祐)

中国言語語表現研究
(干野 真一)

現代日本語動態研究
(岡田 祥平)

日本古代言語文化研究
(磯貝 淳一)

現代日本語文法研究
(池田 英喜)

中国歴史言語文化研究
(藤田 益子)

日本語教育史研究
(未定)



国際共生文化分野

欧米言語文化研究
(未定)

アメリカ社会思想研究
(高橋 康浩)

フランス思想史研究
(逸見 龍生)

機能言語学研究
(江畑 冬生)

ヨーロッパ美術文化研究
(細田 あや子)

地中海文化史研究
(高橋 秀樹)

比較文法研究
(未定)

イギリス文芸文化研究
(市橋 孝道)

英米メディア文化研究
(未定)

比較文学研究
(猪俣 賢司)

フランス文芸文化研究
(津森 圭一)

ドイツ社会文化研究
(未定)

ロシア文化研究
(未定)

表象文化研究
(番場 俊)

映像文化研究
(石田 美紀)

映像思想研究
(キム・ジュニアン)

ヨーロッパ歴史社会研究
(小林 繁子)

西洋美術史研究
(田中 咲子)

アメリカ近代小説研究
(未定)

日英語比較統語論研究
(本間 伸輔)

応用言語学研究
(大竹 芳夫)

近現代芸術研究
(甲斐 義明)

語用論研究
(山田 陽子)

英語圏文化研究
(Hadley, Gregory Stuart)

博士後期課程 【共生社会研究専攻】

共生社会研究専攻は、国際社会や地域社会における法・政治・経済等のシステム及び制度に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、法学、経済学の高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(法学)、博士(経済学)

地域共生社会分野

比較経済思想史研究
(武藤 秀太郎)

ニュー・パブリックマネジメント研究
(未定)

公共経済学研究
(中東 雅樹)

中国経済研究
(溝口 由己)

NPO論研究
(澤村 明)

現代財政研究
(根岸 睦人)

マーケティング研究
(長尾 雅信)

ゲーム理論研究
(高宮 浩司)

産業安全研究
(東瀬 朗)

情報化社会制御研究
(鈴木 正朝)

中国政治社会研究
(未定)

現代行政研究
(馬場 健)

行政理論研究
(未定)

行政法研究
(宮森 征司)

憲法研究
(上村 都)

刑法研究
(田寺 さおり)

刑事政策研究
(櫻井 香子)

民事法研究
(近藤 明彦)

労働経済学研究
(張 俊超)

租税法・財政法研究
(今本 啓介)

刑事訴訟法研究
(稲田 隆司)

会社法研究
(吉田 正之)

商事法研究
(未定)

企業法研究
(内田 千秋)

地域社会研究
(内田 健)

災害地理研究
(未定)

上級ミクロ経済学研究
(山崎 剛志)

上級マクロ経済学研究
(長谷川 雪子)

医療制度研究
(田中 伸至)

医療経営研究
(堀籠 崇)

組織行動論研究
(岸 保行)

経営組織研究
(未定)

経営戦略論研究
(伊藤 龍史)

成年後見法研究
(上山 泰)

社会保障政策研究
(未定)



国際共生社会分野

比較労使関係研究
(木南 直之)

比較政治制度研究
(未定)

家族法制研究
(田巻 帝子)

市民社会基本法研究
(未定)

契約法研究
(未定)

法社会研究
(小泉 明子)

ファイナンス法研究
(田中 幸弘)

刑事制度論研究
(丹羽 正夫)

倒産法研究
(未定)

損害賠償法研究
(岩岸 勝成)

国際経済法研究
(未定)

知的財産法研究
(渡邊 修)

開発途上国経済研究
(石川 耕三)

北米憲法研究
(栗田 佳泰)

ロシア経済研究
(道上 真有)

環境経済研究
(藤堂 史明)

技術経営研究
(白川 展之)

租税理論研究
(未定)

アメリカ経済研究
(大森 拓磨)

国際経済研究
(未定)

分析的会計研究
(加井 久雄)

EU経済研究
(藤田 憲)

応用ミクロ経済学研究
(濱田 弘潤)

比較組織文化研究
(未定)

政治思想研究
(向山 恭一)

国際政治史研究
(神田 豊隆)

国際人権研究
(渡辺 豊)

現代憲法理論研究
(山本 真敬)

日本政治外交史研究
(稲吉 晃)

国際関係論研究
(張 雲)

西洋経済史研究
(未定)

日本酒学分野

経済学から見た酒
(澤村 明)

酒とベンチャービジネス
(伊藤 龍史)

酒蔵組織と経営
(岸 保行)

入学試験について

現代社会文化研究科の学生募集は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の3区分に分けて行います。詳細は現代社会文化研究科HPにて公開している「**学生募集要項**」をご確認ください。
(入学試験に関する問い合わせ先：人文社会科学系大学院学務係 025-262-6166・7895)

博士前期課程

選抜方法

入学者選抜方法の概要は以下のとおりです。

一般選抜

筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験は、外国語科目及び専門科目1科目、又は専門科目2科目とします。
但し、「臨床心理領域」は、所定の外国語科目と専門科目による試験となります。
- 筆記試験（外国語科目、専門科目）の問題は「分野」ごとに出題されます。
- 口述試験は、出願書類を主な資料とします。

社会人特別選抜

筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験は小論文です。小論文は「研究計画書」を参考にして出題されます。
- 口述試験は、出願書類を主な資料とします。

外国人留学生 特別選抜

筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験（専門科目1科目）の問題は「分野」ごとに出題されます。
- 口述試験は、出願書類を主な資料とします。

※社会文化専攻日本社会文化コースの日本語教育領域については、主に外国人留学生を対象に、入学者選抜を別途行います。（10月入学者対象）

※経済経営専攻経営会計分野については、筆記試験を免除される場合があります。「学生募集要項」に示した条件をご覧ください。

入学定員

専攻名	入学定員
現代文化専攻	10人
社会文化専攻	20人
法政社会専攻	10人
経済経営専攻	20人
計	60人



2025年度入試予定

入試の時期	2024年9月	2025年2月	2025年7月
入学の時期	2025年4月	2025年4月 2025年10月	2025年10月
出願資格審査申請期間	2024年7月8日(月) ～7月10日(水)	2024年12月2日(月) ～12月4日(水)	2025年5月12日(月) ～5月14日(水)
出願期間	2024年7月22日(月) ～7月24日(水)	2024年12月16日(月) ～12月18日(水)	2025年5月26日(月) ～5月28日(水)
試験期日	2024年9月13日(金)	前期:2025年2月13日(木) 後期:2025年2月14日(金)	2025年7月5日(土)

※新型コロナウイルス感染症の状況により入試日程が変更となる場合がありますので、詳細は現代社会文化研究科HPで必ずご確認ください。
 ※7月入試までの合格状況を考慮して、2次募集（8月中旬実施）を行うことがあります。

博士後期課程

選抜方法

入学者選抜方法の概要は以下のとおりです。

一般選抜	「修士論文」を提出した者については、書面審査、筆記試験及び口述試験で選抜します。 ●書面審査は、「修士論文」について審査します。 ●筆記試験は、外国語科目1科目を課します。 ●口述試験は、「修士論文」及び出願書類を主な資料とします。 「修士論文」を提出できない者については、筆記試験及び口述試験で選抜します。 ●筆記試験は、専門科目（志望する専攻分野に関する1科目）及び外国語科目1科目を課します。 ●口述試験は、受験した専門科目及び出願書類を主な資料とします。
社会人特別選抜 及び 外国人留学生 特別選抜	「修士論文」を提出した者については、書面審査及び口述試験で選抜します。 ●書面審査は、「修士論文」について審査します。 ●口述試験は、「修士論文」及び出願書類を主な資料とします。 「修士論文」を提出できない者については、筆記試験及び口述試験で選抜します。 ●筆記試験は、専門科目（志望する専攻分野に関する1科目）を課します。 ●口述試験は、受験した専門科目及び出願書類を主な資料とします。 いずれの場合も、入学後の教育研究に必要とする外国語能力（外国人留学生にあっては日本語能力）について条件があります。
進学者選考	新潟大学大学院修士課程、博士前期課程又は専門職学位課程を修了見込みの者は、進学者選考により選考されます。詳細は「学生募集要項」をご確認ください。

入学定員

専攻名	入学定員
人間形成研究専攻	6人
共生文化研究専攻	7人
共生社会研究専攻	7人
計	20人

キャンパスライフ

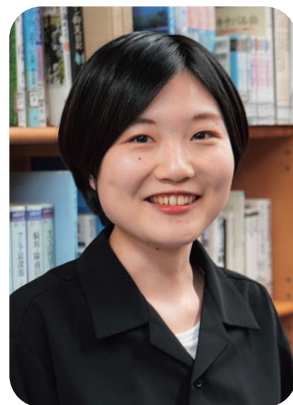
～在学生からのメッセージ～

現在、本研究科で学んでいる学生の声をお届けします。
多様な背景を持った学生の皆さんが、それぞれの目的に向かって日々努力しています。

私は学部時代から民俗学を専攻しており、大学院では、長野県のある村を対象に「“手放せない土地”をめぐる地域の選択と葛藤」というテーマで研究をしています。かつては林業を行う場として、また家の建材や燃料にするための木材や植物の採取地として人々の暮らしを支えてきたものの、現在ではそうした役割を失った山は全国どこにでもあります。そのような土地は、人々にとっては厄介なお荷物でありつつ、同時に今なお手放せないものでもある。そうしたアンビバレントな人と土地との関わりの姿を、フィールドワークを通じて明らかにしようとしています。

進学理由を一言で言えば、4年間の学部生活だけではとても学び足りなかったからです。入門書を読むところから始め、専門的な論文の読み方、調査の仕方やデータのまとめ方などを学び、ようやく研究の入り口に立った頃には卒業の時期を迎えている、というのはあまりにもあっけなしいと思ったのです。新潟大学の民俗学研究室では、毎年フィールドワークを実施して民俗調査報告書を発行しているのですが、私が民俗学ゼミに入った2020年はコロナ禍の真っ只中で、通常3泊4日で行う調査実習ができない状況だったことも進学を後押ししました。

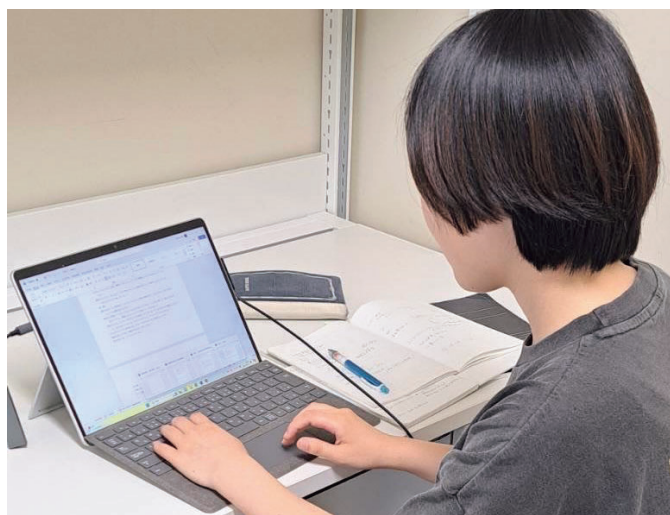
民俗学が、すぐに目に見える形で私たちの生活に利益をもたらすことはあまりないかもしれませんが、しかし、人々がごく当たり前のこととして積み重ねてきた行為を描き出すという民俗学の手法を通じてでなければ、紐解くことのできない社会の姿があるのではないかと考えています。



博士前期課程

社会文化専攻 環東アジア社会文化コース 2年次生

伊藤 早穂子 さん
(いとう さほこ)



現代社会文化研究科に在学中の学生の様子をご紹介します



博士後期課程

共生社会研究専攻 地域共生社会分野 2年次生

山本 一郎 さん
(やまもと いちろう)

社会人になり、いい歳になって、仕事に取り組んできた中で世間の仕組みに関する疑問が湧くも、学識がなく理解に至らず困るという実感と共に新潟大学大学院の門を叩きました。3年が経ち後期博士課程に差し掛かり、学びと理解が進むことで、ようやく、自分自身が人生をかけて取り組んでいきたいと思える

テーマに巡り逢うことができました。知れば知るほどに、自分の知っている領域が如何に狭いことを悟り、奥に道が続き、その先に何があるのか茫洋としながらも目指すべき何かがきっとそこにあるという根拠のない確信を抱いて前に進んでいる感覚です。

自ら歩む道を定め、自らの意志で前に進んでいく学びのあり方は、時として迷いと悩みとを抱きます。書くべき原稿がはかどらず、真っ白な液晶の前にただ座って茫然とする自分を発見するのもまた、不確かな世界で彷徨する精神と向き合える瞬間とも言えます。分からないからこそ学ぶのだとしつつも、正解があるわけではない、師や学友との対話の中にも必ずしも道標があるわけではない状況の中で、考え、模索し、熟慮を重ねながら、さんざん悩んで得心したはずなのにこれは違うのではないかと思ひ至り、全部壊して再考したりして、一步一步暗闇を進んでいくことになります。

仕事ならば、割り切って諦めたり、妥協したり、逃げたりしても、博士課程で取り組む学問は徹底的に考えることを通じた自分との向き合いです。解のない世界へようこそ。



修了生の声

王 添堯

(おう そたか)

現代社会文化研究科 経済経営専攻 (2024年3月修了)

現職：株式会社第四北越銀行 勤務

現代社会文化研究科博士前期課程を修了して、現在は第四北越銀行で銀行員として働いています。現在の主な業務内容は外国為替業務です。外貨の両替・預金取引等の受付事務を行うほか、外国人として、外国語能力を発揮して接客を行うこともあります。

私はより専門的な知識とスキルを深め、将来の仕事においてより高い価値を提供できるようになりたいと考えながら、大学院進学を志望しました。特に、現代社会の複雑な課題に対処するためには、より深い理論的な知識と実践的なスキルが必要だと感じました。また、大学院での研究活動を通じて、自分自身の視野を広げ、異なる視点から物事を見る力を養いたいと考えました。

大学院では、学びの多い充実した時間を過ごしました。授業やゼミでは、多様な文化を持つ同級生と議論する機会が多く、自分の考えを深めるとともに、新しい視点を得ることができました。また、先生の豊富な知識と経験を受け、自分の研究テーマに対する理解を深めることができました。自分の興味関心に基づいて深掘りすることができたため、非常にやりがいを感じました。特に、実例を通じて得られたデータを分析し、自分の仮説を検証するプロセスは、理論と実例を結びつける貴重な経験となりました。



大学院生活で部活動に参加し、多くの日本人と友人関係を築き、日本語能力はもちろん、問題解決能力やグループワークで求められるコミュニケーション能力も飛躍的に上昇しました。現在の職務において複雑な課題に直面した際に大いに役立っています。

何より、大学院での学びは、私の現在の職務において多くの面で役立っており、進学を決断したことは非常に良い選択だったと感じています。これからも、大学院で得られた知識と経験を活かしながら、さらに成長していきたいと考えています。



〈修了生の進路〉

博士前期課程を修了し、修士の学位を取得したときには、博士後期課程に進学しその学問上の理解を更に深めようとする者のほかに、公務員となり、教員として教育に携わり、または民間企業に就職している修了生がいます（その割合は、おおよそ、進学者が15%、公務員が5%、教員が5%、民間企業への就職者が45%です。残りの3割の学生は、留学生として来日し本研究科で研究を行い、修士号取得後に帰国しています）。

博士後期課程に在学している学生はその多くが既に有職者ですが（社会人大学院生）、博士号を取得して研究者としての職を得ている方もおられます。



人文社会科学系棟



現代社会文化研究科棟



※JR新潟駅から新潟大学までの交通案内

JR	バス(新潟交通バス)	タクシー
越後線 JR新潟駅 ↓(約20分) 新潟大学前駅下車 徒歩約15分	新潟大学行き JR新潟駅 (万代口駅前バスターミナル) ↓(約45分) 新潟大学正門前下車 徒歩約1分	JR新潟駅 ↓(約40分) 五十嵐地区



真の強さを学ぶ。
新潟大学
 NIIGATA UNIVERSITY

**新潟大学大学院
 現代社会文化研究科**

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

GRADUATE SCHOOL OF MODERN SOCIETY AND CULTURE
 NIIGATA UNIVERSITY
 8050, Ikarashi 2-no-cho Nishiku, Niigata City 950-2181, Japan

お問い合わせ

人文社会科学系大学院学務係(人文社会科学系棟D棟1階)

TEL: 025-262-6166・7895

FAX: 025-262-7457

E-mail: jimugen@cc.niigata-u.ac.jp

Web page URL: <https://www.gens.niigata-u.ac.jp/>